



人生の美しさは、自分の幸せではなく
他人の幸せに何ができただか

アウニ オーガスティン アゾチマン 56歳

野口英世が黄熱病研究でガーナの人たちを救ってくれた恩返しをしたいと日本に来ました。そして小林虎三郎の米百俵の話を聞き大きな感銘を受けて長岡に来ました。ガーナでは子どもたちがまごもに授業を受ける環境がありません。教育があるかないかで人は変わります。そして教育を受けた人材が国をつくります。故郷ガーナの状況を見て、学校を建てようと思いました。人生の美しさは自分の幸せではなく、他人の幸せに何ができただかにかかっていると思います。

その私の活動を多くのメディアが伝えてくれ、長岡市内外からどんどん協力してくる人が名乗りでてくれました。本当にありがたいと思いました。「ありがたい」の反対は「当たり前」です。当たり前だと思えば感謝の気持ちは湧いてきません。感謝の気持ちを忘れてはいけません。

アウニさんの男のロマンを応援したかった

吉澤守 72歳

妻がアウニさんの英語教室に通っていたことがアウニさんとの出会いのきっかけでした。アウニさんの学校を建てるという壮大な計画を聞き、すごいなと思いました。アウニさんと2回目に会った時に協力してほしいという話があり、その場で協力を即決しました。

私自身戦後間もない頃で、中学校までしか出ていません。その後26歳の時に会社を立ち上げこれまで頑張ってきました。私は「男なら一旗あげなきゃいけない」と思ってやってきました。誰もやらない学校建設をすると言ったアウニさんの男のロマンに協力をする事に、余計な理屈はいりませんでしたね。

II 市民協働 story II

アウニさんは故郷であるガーナのプアルグ村で屋根もない校舎で勉強する子どもたちのために、学校を建設することを決断し、平成12年に基金を設立しました。長岡市内だけでなく、全国からの応援を受け、学校を建設することができました。当時小学校へ通っていた児童の数は250名でしたが、学校が建設され、今では小中学校合わせて1850名もの児童が学校に通えるようになりました。

